

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

都道府県	兵庫県	学校名	仁川学院小学校
管理機関	学校法人 仁川学院	設置者の別	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
仁川学院小学校	【URL】 仁川学院小学校_教育課程特例校-英語教育の取組.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL
仁川学院小学校	【URL】 仁川学院小学校-令和7年度-特別の教育課程実施状況報告.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

✓ 計画通り実施できている □ 一部、計画通り実施できていない □ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

本校では、1～3年生で週3時間、4～6年生で週2時間の英語学習を設定し、低学年から段階的・継続的に英語力を育成する教育課程を、おおむね計画通り実施することができた。

低学年では英語の音やリズムに親しみ、「聞く」「話す」活動を中心に学習を進め、中学年では「読む」「書く」を加えた4技能の育成と英語検定への挑戦を意識した指導を行った。高学年では、習得した語彙や表現を実際の場面で活用し、自分の思いや考えを英語で伝える学習に取り組んだ。

また、ICTを活用したオンラインチャット学習を取り入れ、教室で学んだ英語を実際の対話で活用する機会を設け、実践的なコミュニケーション能力の育成を図った。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

✓ 実施している □ 実施していない

学校ホームページや学校案内等を通して、本校の英語教育の特色や教育活動について情報を提供している。また、学校行事や日常の教育活動を通して、保護者が児童の学習状況や成長を知る機会を設けている。〔実際の公表・実施状況を確認のうえ確定〕

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校では、英語によるコミュニケーション能力を育成し、異なる文化や価値観をもつ人々と積極的に関わることのできる児童の育成を目指している。低学年から継続的に英語に触れる教育課程により、児童が英語に親しみ、段階的に語彙や表現を身につける学習を進めることができた。

ICTを活用したオンラインチャット学習では、学習した英語を実際に使用する機会を確保し、英語によるコミュニケーションへの意欲や実践的な表現力の育成につなげることができた。各学年の発達段階に応じた指導を継続し、本校が目指す「使える英語」の育成に向けて、おおむね計画通りに取り組むことができたと考えている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、英語教育を通して、言語や文化に対する理解を深め、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に取り組んでいる。低学年からの継続的な学習とオンラインでの対話活動を通して、相手の話を聞き、自分の考えを伝えようとする経験を積み重ね、主体的に学習に取り組む態度や他者を理解しようとする姿勢の育成につなげている。

これらの取組は、基礎的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成に資するものである。

5. 課題の改善のための取組の方向性

本校では、特別の教育課程に基づく英語教育をおおむね計画通り実施できており、現時点で大きな課題は生じていない。今後も、児童の発達段階や習熟状況に応じた指導を継続するとともに、学習した語彙や表現を実際のコミュニケーションで活用する機会を一層充実させていく。

特に、ICTを活用したオンラインチャット学習と日常の授業との関連を深め、事前学習・実践・振り返りを効果的に組み合わせる。また、児童の学習状況や到達度を継続的に把握し、6年間を見通した系統的な英語教育のさらなる充実を目指す。